

特集：ICT を活用した教育の質保証

英語科教員によるデジタル教科書とそのほかの教材の活用に関する研究

藤本 義博*, 野中 陽一**, 園田 文***

Research on the Use of Digital Textbook and Other Teaching Materials by an English Teacher

Yoshihiro FUJIMOTO*, Yoichi NONAKA**, Aya SONODA***

1. はじめに

中学校では、新しい学習指導要領が2012年4月に完全実施となるなか、教科書に準拠し主に教員が電子黒板などに提示するための指導者用デジタル教科書が、各教科書会社より一斉に提供された。デジタル教科書の整備率は、2012年3月の22.6%から2013年3月には32.5%となり上昇傾向にある⁽¹⁾。ところで、指導者用デジタル教科書に関する研究では、算数科⁽²⁾、国語科⁽³⁾、音楽科⁽⁴⁾、特別支援教育⁽⁵⁾に関する研究はあるものの、中学校の英語科に関しては見当たらない。また、動的リンク機構の開発研究⁽⁶⁾のように開発したシステムを評価したものや、デジタル教科書などを拡大提示する際の「情報提示」「発話」「焦点化」といった教授行動を分析したもの⁽⁷⁾はある。しかし、英語科のデジタル教科書は発刊されて間もないため、教員のデジタル教科書の使用経過を調査したものはない。実装されている機能が、教員にどのように受け入れられ活用されるかを調査することは、普及啓発を進めるうえで意義深いと考える。そこで本研究では、指導者用デジタル教科書を初めて活用する英語科教員の授業を継続的に観察・記録して、デジタル教科書とそのほかの教材の提示時間や提示内容を分析して評価することを目的に研究を行った。その結果、デジタル教

科書は一斉練習でよく活用されることが明らかになった。また、生徒の実態に応じて、特に英文法の指導ではデジタル教科書を提示しないで自作のスライドで指導することが示唆されたので報告する。

2. 授業の記録と分析方法

2.1 調査対象の学校と教員

英語科授業でのデジタル教科書の調査を実施した学校は、岡山県倉敷市立玉島北中学校である。本研究では、2012年4月までに、教室に天吊りのプロジェクターとスクリーン、実物投影機、無線LANのノートパソコンを設置して、教科書準拠の指導者用デジタル教科書を日常的に使用できる環境を整備した。

この学校で第1学年の英語科を担当するA教諭は、22年の教職経験を持つベテランで、4学級の生徒を合計124名指導している。デジタル教科書を活用する以前のA教諭は、英単語や熟語の習得に関しては紙のフラッシュカードを、リスニングではネイティブの音声CDを、そして、熟語や構文などについては板書のほかにもプレゼンテーションソフトで自作したスライド教材を使って指導していた。A教諭は、2012年4月から8月にかけては、デジタル教科書を教材研究するために数回視聴したもの、授業では使用していない。

* 倉敷市教育委員会 (Kurashiki City Board of Education)

** 横浜国立大学 (Yokohama National University)

*** 三省堂 (SANSEIDO, LTD)

受付日：2013年5月6日；再受付日：2013年7月16日；採録日：2013年9月24日